

2018年7月3日

各 位

大阪信用金庫
理事長 高井 嘉津義

定例調査：第176回 景気動向調査（4～6月期）

☆景気拡大は足踏み 個人消費が鍵・・・売上DI+2.3 収益DI+0.1

☆設備投資は一段落 人材確保へシフトか？・・・「実施中・予定あり」19.1%

☆原油高騰 収益の足かせに・・・問題点「仕入単価の上昇」45.1%

☆夏季賞与 リーマン・ショック以来最高に・・・「支給する」62.6%

●景気拡大は足踏み 個人消費が鍵 売上DI+2.3 収益DI+0.1

総合では、売上DIが+2.3(前回比△0.2ポイント)、収益DIが+0.1(前回比+1.1ポイント)となり、景気拡大に一服感が出ています。

製造業が好調を維持する一方、小売業や飲食業が不振でした。4月からの光熱費や一部商品の値上げにより、個人消費の伸びが鈍化したことが原因と思われます。

7-9月期は、総合で売上DIが2.5ポイント、収益DIが1.2ポイント上昇と予想していますが、今後、大阪北部地震の影響も予想され、先行きの不透明感が増えています。

●設備投資は一段落 人材確保へシフトか？ 「実施中・予定あり」19.1%

設備投資は、総合では「実施中」7.7%(前回比△1.2ポイント)、「予定あり」11.4%(前回比△0.3ポイント)で合計19.1%となりました。

企業の設備投資意欲は依然として高いですが、機械のオペレーターやトラックの運転手といった人材の不足があり、実施を先延ばしにする企業も現れています。まずは人材の確保を最優先に考える企業が増加していると思われます。

●原油高騰 収益の足かせに 問題点「仕入単価の上昇」45.1%

経営上の問題点は、総合では「仕入単価の上昇」が45.1%(前回比+0.0ポイント)で第1位となりました。

生鮮食料品は落ち着きを見せていますが、原油相場の変動によるガソリン価格の高騰や鉄鋼などの原材料価格が高止まりし、仕入価格の上昇が最大の経営課題となっています。

一方、人手不足で人件費の増加や物流コストの上昇が続いており、仕入価格の上昇と合わせ、企業の収益を圧迫する要因となっています。

●夏季賞与 リーマン・ショック以来最高に 「支給する」62.6%

夏季賞与については、「支給する」が62.6%(前年比+2.1ポイント)で、リーマン・ショック以来、最高を更新しました。賞与を支給する中小企業が着実に増加しています。

業績が好調な製造業や建設業で支給する企業が7割を超えました。また、人手不足が深刻なサービス業や運輸業で支給する企業が6割を超えています。

夏季賞与支給増加の背景には、業績回復や人手不足への対応があると思われます。

調査時点：2018年6月上旬

対象期間：2018年4～6月(実績) 2018年7～9月期(見通し)

対象企業：当金庫お取引先1,791社(大阪府内、尼崎市)

回答企業数：1,533社(回答率85.6%)

調査方法：調査票郵送および聞き取り調査

本調査に関するお問い合わせは下記までお願いします

株式会社だいしん総合研究所(担当：福井)

TEL:(06)6211-2921 FAX:(06)6211-2930

E-mail:souken@osaka-shinkin.co.jp URL:http://www.osaka-shinkin.co.jp

この街のホームドクター